

対面とオンラインにおけるグループワークの成果

山中星流

指導教員 小谷浩示

研究背景

2019年に起きた新型コロナウイルスパンデミックに依る「情報技術を用いたオンラインでの活動増加」はこれまでの仕事・学習の在り方を大きく変えた。既存研究では、ソロワークを対面、オンラインで行った際の成果を比較する実験が行われている。しかし、グループワークの成果について他者との繋がり方やタスクの種類や報酬制度に着目した比較・分析は十分に行われていない。

研究目的

本研究は、実験のために用意されたタスクをランダムに決定したグループで取り組んでもらうことでその成果を分析する。オープンクエスチョンとして「Zoomなどを用いたオンラインでのグループワークは対面と比べて有効なのか。またそれはタスクの種類や報酬制度によって違いはあるのか」、仮説として「創造的タスクでは、対面よりオンラインでの成果は下がる」「単調的タスクでは、対面とオンラインでの成果の差はない」「タスクのタイプに関わらず、競争的より協力的報酬制度の方が成果は高い」の3つを設定し、その実験実証を行う。

研究方法

高知工科大学と高知大学の学生計 556 人を無作為に Control 群(対面でグループワークを行う)と Treatment 群(オンラインでグループワークを行う)に分け、タスクのタイプや報酬制度も考慮した Between-subject デザインの実験を実施した。

分析結果

統計解析を行った結果、単調的タスクでは対面、且つ、協力的報酬制度の方が成果は良くなる事、創造的タスクでは対面かオンライン、そして、報酬制度は成果に影響を及ぼさない事が示された。

考察・結論

単調的タスクの場合は対面の方が成果は良くなる事、協力的報酬制度の方が成果は良くなる事、創造的タスクの場合は他者との繋がり方や報酬制度は成果に影響を及ぼさない事が示された点から、グループワークにおいては、単調的タスクは他者との繋がり方や報酬制度が動機を刺激し成果を高めるが、創造的タスクにおいては、動機の刺激が成果に直接的に繋がらなかったと解釈出来る。